

## 太宰府天満宮本殿大改修

2023 年 5 月、太宰府天満宮御本殿の 124 年ぶりの本格的な改修工事が着手された。この大改修は、歌人としても学者としても高名な菅原道真公（845-903）の没後 1,125 回忌である 2027 年に催される式年大祭に向けて開始された。道真公は学問・文化・芸術の神様である天神様として本殿に祀られている。太宰府天満宮は道真公の没後から何世紀にも渡って、学問と芸術の発展に対する道真の意志を存続させてきており、その精神は今回の改修工事にも反映される。天満宮は、この修理を通じて得られた神様のお住まいになる場所に関する新たな見識を後世に伝えていきたいと考えている。

御本殿の改修には、屋根の葺き替え、表面の漆の塗り直し、自然災害に対する構造の強化などが含まれる。御本殿が最後に再建された約 430 年前以来で最も大規模な改修となる。建築家や歴史家や他の研究者によって、屋根の状態や建物の構造的健全性を分析し、伝統的な技術や資材を使用して必要とされる改修が行われる。

現在の御本殿は 16 世紀の最先端の建築技術で建てられた。この複雑な工法は現代の建築では採用されていないため、天満宮の改修は次世代へとそうした工法を伝えていく重要な機会となっている。例えば、今回の改修対象の一つに御本殿の檜皮葺の屋根がある。1300 年以上前に生まれたと言われる檜皮葺の技術は、薄い檜の皮を何層にも重ねて葺くやり方で、耐久性、防水性に優れ、屋根をカーブさせるのに必要な柔軟性が得られる。経験ある檜皮葺師は、こうした技術やその他の伝統手法を継承するため、弟子達と共に作業にあたる。

改修開始に先立って、天神様の御霊は本殿から一時的なお住まいである仮殿へと遷った。大規模な改修においては、改修期間中の神様の適切なお住まいとして仮殿が必須となる。また、作業員は天神様がいらっしゃる神聖な空間には立ち入ることはできないとされている。天神様が人目に触れず御本殿から仮殿へと遷れるよう間の通路を神職が幕で隠す中で、仮遷宮は夜間に執り行われた。また、何世紀にも渡って天神様に奉納されてきた多くの宝物も神職によって御本殿から移動され、点検と修理が行われた。

この大改修は、2026 年に予定されている道真公を祀る式年大祭に先駆けて完了する予定である。式年大祭は 25 年毎に行われており、それは道真公の生誕と薨去がいずれも旧暦の月の 25 日に起こっており、宗教的な意味のある数字とされていることからきている。天神様の神威の発揚を祈るこの祭りは、太宰府天満宮の最も重要な神事である。